高等部

飛び級社会人（共生学）

高松功太郎　長岡亜矢子

2022 年度より実験的なカリキュラムとして開始された「飛び級社会人」は、2023 年度より高等部 2・3 年生を対象とした必修授業として実施が始まった。2024 年度は総勢 166 名の生徒が 44 の企業および団体に受け入れられた。10 月末から 2 月中旬にかけての約 4 か月間、3 分の 1 の生徒が宿泊を伴う短期集中コースに、3 分の 2 の生徒が毎週水曜日に最大 13 回の活動が行われた定期コースに参加した。

1.　必修授業導入までの準備

必修授業としての導入にあたり、全生徒が参加できるように、受け入れ先を昨年度の 20 から約 40 に増やす必要があった。受け入れ先の拡大は、「人との共生」「自然との共生」を軸に、共生学担当の竿代、高松、山本、そしてコーディネーターの長岡らが、魅力的な活動をしている企業・団体に直接アプローチすることで行われた。遠方の企業にも足を運び、丁寧な対話と交渉を重ねることで協働関係を構築し、新規開拓に取り組んだ。また、博報堂ケトルの原利彦氏より、縁のある企業・団体を紹介いただいた。

受け入れ先の倍増に伴う煩雑で膨大な運営業務に関しては、昨年度と同様、FORA の支援を受けた。また、受け入れ先との契約関連業務は小泉が担当した。

2.　オープニングセレモニー

今年度は、「飛び級社会人」をきっかけに自由学園と初めて関わりを持った受け入れ先も多かったため、プロジェクト開始前に本校の雰囲気や生徒との相互理解を目的としたオープニングセレモニーを記念講堂で開催した。オンラインおよび現地参加を合わせて合計 33 の企業・団体（総勢 49 名）が参加した。

受け入れ先の皆様への感謝の気持ちを込めて、希望する受け入れ先を高等部の昼食に招待し、遠方の受け入れ先にはオンライン配信も実施した。セレモニー終了後には、対面とオンラインそれぞれで生徒と受け入れ先の顔合わせが行われた。生徒による丁寧な学園案内やおもてなし、そして受け入れ先による温かい声かけにより、双方にとって初対面のハードルを乗り越えることができた、心温まるセレモニーとなった。

3.　実際の活動

昨年度と同様に、1 週間から 20 日程度の遠方滞在を伴う短期集中コースと、毎週水曜日 3〜6 時間目に実施される定期コースの 2 つに分けて活動を行った。受け入れ先の倍増に伴い、「飛び級社会人」担当教職員だけでなく、高等部 2・3 年生の担任、高等部部長、FORA の協力も得て、活動中の生徒の様子を見学するため、各企業・団体を訪問した。

両コース共に、最初は初めての場所や人に囲まれて緊張気味だった生徒たちも、受け入れ先の方々と一緒に時間を過ごすことで、日に日に表情が明るくなり、活発になっていった。また、これまで関わりの少なかった生徒同士も活動中の苦楽を共にすることで、それぞれの苦手なことや得意なことを役割分担するなど、チームで協力する姿が見受けられた。

4.　中間振り返り会

本年度は新たな試みとして、本プロジェクトの中間期である 12 月中旬に中間振り返り会を実施した。講師として、受け入れ先としてお声がけしていた企業の一つでもあり、本プロジェクトに共感いただいた株式会社ワーク・ライフバランスの新井セラさんを招いた。

会の前半では、日本社会における働き方の変化や新井さんの経験を軸に「働くということ」についての座学が行われ、インプットする時間を設けた。後半では、生徒それぞれのアウトプットを目的に、飛び級社会人での経験を対話によって共有するグループワーク

を行った。

活動中は、互いの活動について共有する機会が少なかったため、この共有会によって、生徒それぞれの経験や想いを分かち合うことができた。さらに、他の生徒たちとの対話により、自分の活動の新たな価値に気づき、休暇の重要性や社会には自分たちが知らない様々な仕事や生き方があるという点にも関心が持てた様子だった。

5. 学びの共有会

3 月上旬に行われた「まなコレ(学びの共有会)」にて、本プロジェクトの発表会を実施した。本年度は受け入れ先にも出展を呼びかけ、商品や食品の販売やワークショップ、ロボコン体験会等も行われた。

生徒たちは、記念講堂、最高学部食堂、高等部食堂、記念ホール 4 つの会場に分かれ、派遣先ごとに約 10 分間のプレゼンテーションを 1 日かけて行った。在校生や保護者だけでなく、受け入れ先の方々も来校され、生徒たちの発表をより多くの方に見ていただけた。また、保護者と受け入れ先の方々が生徒を介して直接お話しされる様子も各会場で多く見られた。多様な大人が複数の角度から生徒たちを見守り、交流を持てたことは本プロジェクトならではの貴重な光景である。

出展にご協力いただいた企業・団体はどこも行列が絶えないほど大盛況で、多くの在校生や保護者、および学園関係者にも受け入れ先を通じて、本プロジェクトを知っていただく機会を創出できた。さらに、生徒主体での出展もあり、学外での学びを学内へ還元することができた。本年度は、全 12 の企業・団体に出展へご協力いただいた。

6. 生徒および受け入れ先の所感

定期コースでは、本年度は受け入れ先の選択希望調査の際に、各企業・団体の活動内容をキーワードで分類した。生徒たちにはそのキーワードに優先順位をつけてもらい、受け入れ先の振り分けの参考にした。その結果、企業・団体名での選択よりも、生徒たちの希望に沿える可能性を高めることができた。また、当初はなかなか受け入れ先の活動内容に興味が持てなかった生徒が、活動終盤には前のめりに取り組むような変化を見せた事例もあった。

短期集中コースでは、寮とは異なる環境で寝食を共にするという密度の高い時間を過ごしたことで、学校の中での「友人」、「先輩」、「後輩」という既存の関係性を超えた関係を築くことを経験した。単なる「仲良し」ではなく、活動中に同じ目的を持ち、共感や同意だけではなく、それぞれの意見を言い合えるなど「名前のつかない関係性」を築く経験を通じて、他人を尊重する喜びや難しさを実感できたことは、実社会にも通じる貴重な成果である。

受け入れ先からは、生徒たちと関わることで、学びを得たというコメントが多数寄せられた。普段関わることのない高校生に自身の事業内容や業務を伝える過程で、自身の仕事の新たな意義に気づく機会となったようである。また、生徒たちの生活力の高さや他人への気遣いを称賛する言葉も多かった。短期集中コースでは朝起きて食事を作り掃除をするなど、当たり前の日常生活を疎かにせず行う生徒たちの姿を見て、日常生活の大切さを再認識した方も多かった。重い荷物を運ぶ人を即座に手伝う姿勢や、頼まれた物を取りに行くときに駆け足で向かうなど、他者への思いやりが生徒たちの行動に表れている様子を伺うことも多々あった。自由学園で日々実践している当たり前の生活そのものが、学外でも大きな価値があることを生徒たちにも改めて伝えていきたい。

7. 次年度の展望と課題

本年度も魅力的な受け入れ先の多大なるお力添えにより、生徒たちに多様な社会の一端を体験する機会をつくることができた。一方で、振り返りの時間が足らず、生徒たちの学びを深める機会を十分に確保できなかったことは課題である。今後、生徒数が増加する可能性を鑑み、受け入れ先の枠を増やすべきか、必修授業であるべきかなど、人員体制も含めてプロジェクトの意義を再検討する必要がある。

また、一部の生徒には、受け入れ先への連絡や報告が滞る、急な依頼をしてしまうなどのマナーに欠ける行動も見られた。他者への思いやりという文脈から、社会で働く上でなぜビジネスマナーが大切なのかを、継続的に伝え続けていく必要がある。

8. 謝辞

長期間にわたり本校の生徒たちに温かく向き合い、根気強く成長を見守ってくださった、受け入れ先企業・団体のご担当者様には心より感謝を申し上げる。また、博報堂ケトルと一般社団法人FORAの皆様の本プロジェクトへのご尽力にも深く感謝申し上げる。校内の各部署、高等部2・3年生の担任、保護者の皆様にも、イレギュラーな実務的な面から生徒の心理的なサポートまで多大な協力をいただいた。全ての関係者に感謝を伝えるとともに、2025年度も一層のご協力をお願いしたい。

9.　受け入れ先企業・団体一覧

秋田緑花農園、一般社団法人AOH、一般社団法人CO-SAKU谷 シモキタFABコーサク室、一般社団法人まちにわ ひばりが丘、一般社団法人流山家守舎、一般社団法人フラットデザイン/シェアキッチンMIDOLINO_（ミドリノ)、UNE STUDIO、NPO共働学舎 立屋学舎/真木学舎、 学校法人自由学園 JIYUアフタースクール、株式会社LU.TWIYO、株式会社太田出版、株式会社講談社、株式会社SATOCOMPANY、株式会社自由学園サービス 自由学園明日館、株式会社TO・BI・RA（だがしや かなん)、株式会社ナチュラルスタンス/おとなりさん。小金井公園、株式会社婦人之友社、株式会社行雲、カミーノ株式会社/Ome Farm、カンロ株式会社、KDDI株式会社、小杉湯/小杉湯原宿、しおん学園（忘れな草)、シビック・イノベーション拠点スナバ、渋谷のラジオ、下里しおん保育園、自由学園しののめ茶寮、 STEAM studio、センスオブファン株式会社、太陽工業株式会社、たべごと屋のらぼう、てらすワークショップ、特定非営利活動法人C・C・C富良野自然塾、ノウマチ、harumaki design、非営利型株式会社Polaris、ピッキオ、フクシマ商店、ホテル金甚、本屋B&B みらいくほいくえん/保谷園/南大泉園/第二南大泉園/西大泉園 ほか、有限会社きたもっく、有限会社ブラウンズフィールド、有限会社フラノ・クリエイティブ・シンジケート

※50音順

10.　活動紹介動画(2023年度の活動の様子)

https://www.youtube.com/watch?v=syRZFVFxPKA